



● 群馬県素材生産流通協同組合 ●

◆ 組合紹介

当組合は県産材の振興のため、原木の伐採や運搬を請け負う素材生産業者で組織化された組合。組合で原木市場を設置・運営し、原木の安定供給を図っている。

◆ 組合活動

メインの組合事業は、原木市場の運営で、月に3回、県内各地の素材生産業者から持ち込まれる原木の市を開催している。1回の市で取引される原木は約1000m<sup>3</sup>。その多くは製材業者に販売される。原木の90%以上は「杉」で、直径7センチから60センチのものが主流だが、それ以上の太さの原木も並ぶ。組合では、自動選別機でサ

イズごとに選別され、作業員によって敷地内に整然と並べられる。原木市場は、取引量の増大に伴い、平成17年、藤岡市本動堂から現在の藤岡市浄法寺へ移転した。



敷地内の様子 自動選別機(写真左)

教育情報事業として、定期的に、視察研修と技術講習会を開催している。技術講習会では、機械操作や作業道整備の習熟度を高めるため技能や知識の習得に加え、関連施策などの周知徹底を図っている。また、本事業は、講習会開催に留まらず、各組合員同士の貴重な情報交換の場としての役割も果たしているとのこと。

また、組合では、行政が推進する「間伐材流通促進事業」に取り

組み、間伐材の伐採支援を通じて、山が荒れることを防ぎ、水害などの災害を防止し、森林資源保護育成の担い手となっている。

◆ 今後の展開

近年、原木取引の低迷に伴い、販売価格も低下傾向にある。こうした中、組合では、新たな事業の



原木をチップ化する「チップパー」

柱として、木質バイオマス発電所に販売する「木質チップ」の製造販売を開始する。木質チップの原料となるのは、市場に搬出されない不良材が中心。木質バイオマス発電は、再生可能エネルギーとして注目を浴びており、今後も木質チップの需要の高まりが予想されると共に、不良材の伐採により、森林整備の一助としての効果も期待されている。

組 合 の 概 要

○所在地	藤岡市浄法寺530
○代表理事	橋爪洋介
○出資金	86,070千円
○組合員数	112名
○主な事業	共同販売事業、共同購買事業、教育情報事業
○成立年月日	昭和53年3月24日
○ホームページ	<a href="http://www7.ocn.ne.jp/~sosei123/">http://www7.ocn.ne.jp/~sosei123/</a>

こぼれ話

住宅の柱材等として加工された木材の寿命は、300年以上と言われていました。奈良の正倉院は、約1200年にわたって湿度や雨風から古の宝物を守ってきました。最近では、集材材として加工されるケースも多く、鉄骨に負けない強度や独特の柔軟性、さらには耐火性まで持たせた製品も開発されるなど、住宅建材としての木材の魅力は、大きく膨らんでいます。